

第3回長南町小中一貫校設立委員会記録

- 1 日時 平成26年12月4日（木）15時30分～
- 2 場所 長南町保健センター（庁舎分館）2階第1会議室
- 3 出席者 委員：17／17名
教育委員会：4名



4 概要

- (1) 教育長あいさつ
- (2) 委員長あいさつ
- (3) 協議

【委員長】 本日の協議内容について事務局の説明を求める。

●統合校の校名案・総称案について

【事務局】 まず始めに、校名の決め方について確認する。10月2日第2回会議で委員各位の意見を聞いた。その中で、校名は「長南小学校」、総称は「長南学園」が良いという意見が大半を占めていた。

その後10月15日から11月6日にかけて住民アンケートを実施したので結果報告をする。

アンケート結果を踏まえた委員の意見を聴取し、委員の意見も添えて、教育委員会会議に臨みたいと考える。

教育委員会会議で審議後、議会に上程し、学校の設置条例として校名が決定するという流れになる。

※校名案アンケート結果及び校名の検討について資料を基に説明。

(※第3回小中一貫校設立委員会資料参照)

【委員長】 アンケートの結果について意見等あるか。

【委員】 長南小学校で良い。

【委員】 大まかな流れでこう出ているので、これで良いと思う。

【委員】 長南が妥当である。

【委員】 アンケートで55%という数字が出ているので、これで良い。

【委 員】 この結果を見れば、誰が見てもこれしかないと思う。

【委 員】 やはりという感じだ。これで良いと思う。

【委 員】 一番わかりやすくて良い。

【委 員】 長南小学校が良い。どこに行っても長南町の学校だと分かる。

【委 員】 良いと思う。

【委 員】 分かりやすく、親しみのある名前で良い。

【委 員】 長南小学校・長南学園で良いと思う。

【委 員】 私も同じである。

【委 員】 このままで良いと思う。

【委 員】 私もこれで良い。

【委 員】 長南・長南学園で異議なし。

【委 長】 全く異議なし。



【委員長】 全員がアンケート結果通りで良いということである。事務局には、アンケート結果から「長南小学校」「長南学園」が多数を占めていること、設立委員から異議も無いことから、この結果を委員会の意見としてお願いしたい。

【事務局】 この会議の意見を添え、上程していく。

●スクールバスの運行経路について

【委員長】 次にスクールバスの運行についてだが、最初にスクールバスが必要かどうかという点について事務局の考えを聞きたい。

【事務局】 長南町はとても広い。歩いて通学は不可能なことなのでスクールバスは運行すると考えている。

【委員長】 経路について説明を願う。

（※説明資料は、第3回小中一貫校設立委員会資料を参照してください。）

【事務局】 スクールバスの基本的な考え方から説明したい。子どもたちが安心・安全に通学できることが一番である。そのためには乗降場所にもある程度の広さが必要である。

次に乗車時間も、1時間以上かかるようであれば、子供達の体調や集中力等も考え、適切では無いと考える。また各家庭で、バスを停めていくと時間の口

スが大きく。更に、安心安全な場所を決め、そこまで歩かせることで、体力の保持増進にもつなげたい。

事務局で何度も場所を確認したが、見落としもあると思う。提案したものが本当に安心・安全なのか、集まりやすいのか、それぞれの地区ごとに分かれて検証してほしい。それを全体会議に持ち寄り再度検討していただく、ある程度まとまったら住民説明会等を開き、直接乗降する子供の保護者等にも検討してもらいたいと考えている。

事務局として2つの案を提示する。第1案は、スクールバスと路線バスを兼用して、時間短縮を考えたものである。

第2案は、スクールバスのみ案である。両案とも、1つの円が停留所から直線距離で1500mとなっている。破線については、長南中から2kmを示している。子供の足で30分あれば乗降場所に来れると考えたものである。

円の中の数字は、乗降場所に集まる児童を想定した数字である。3歳児から9歳児までの住所から推定している。

青く囲った部分は、路線バスの区域となる。

この案について、それぞれの地区に分かれ、現実的に可能か検討し指摘してほしい。

今日は、全体的な考え方として、安心・安全な場所の確保と、子供たちの体力をつけるためには、ある程度歩かせる必要があるのではないか等、全体的な考え方について意見を聞きたい。

【委員長】 参考までに、事務局では何人乗りのバスを考えているか聞きたい。

【事務局】 スクールバスは、子どもの人数によって仕様を変えたいと考える。路線を使用しなければある程度の大きさが必要である。
そうでなければ、中型バス以下で対応できると考える。



【委員】 中型だと通れない道もあると思うがいかがか。

【事務局】 提示したルートは大型でも通れる道で作成した。人数が少ない地区においては、マイクロなども29～33名乗れるため、十分対応できると考えている。
ルートが決定し、人数が確定した時点で車種を決定したい。

【委員長】 スクールバスの台数や本数について考えがあるか。

【事務局】 登校については、1便、3台を考えている。下校については2便で6台と考える。

【委員長】 部活などで遅くなった場合もここで検討するのか。とりあえず、運行経路のみを決めるということで良いのか。

【事務局】 教育課程は学校が考える。この委員会では経路案を検討してほしい。

【委員】 児童数は実際開校するときには変わると思うがいかがか。

【事務局】 この資料の児童数は、開校時の児童数で調べてある。

数年間、大きな変動はないと考える。卒業・入学により、多少変動するが、5、6人程度の変動である。



【委員】 対象は小学生のみか。中学生は今まで通り自転車ということでよいか。

【事務局】 中学生には自転車と考える。一般的に、登録していない者はスクールバスに乗せないが、中学生で怪我などがあった場合は、乗せても構わないという形にしていきたい。

【委員】 円が交差している部分の人数は、両方にかぶって計算してあるのか。

【事務局】 別々に計算してある。かぶっているところは、最終的には保護者の判断で選択してもらうこととなる。

【委員】 案1と案2で、時間はどれくらい違うのか、路線バスの時間は、登下校の時間に合わせられるのか聞きたい。

【事務局】 まだ実際にバスを走らせてはいないが、5分から10分程度の差と考えられる。1案は移動距離が短いので出発時間を遅らせることができる。

路線バスは業者との交渉となるが、一般的には合わせてもらえる。現状では、一般の方より児童の方が多いという状況である。十分話し合いの余地はあると考える。他町では、路線の経路まで変更している。

【委員】 ○町で何か弊害のようなものは聞いていないか。

【事務局】 弊害というのは、今のところ出ていない。長南町では、一般より児童の乗車が多いので、全面スクールバスとなると、費用対効果を考え、巡回バスの検討も必要だと考えるが、この委員会ではなく町に委ねることとなる。

【委員】 路線バスは、町バスか。普通の駅などに向かう路線バスか。

【事務局】 案1は、路線バスである。牛久・茂原・坂本から長南車庫のルートである。町の巡回バスは、現在西小で活用しているので使用可能である。

【委員】 金額的には、路線バスを使う場合が、一番負担が大きいと思うがいかがか。

【事務局】 最終的には町の財政との話になるが、事務局としては、スクールバスが無料で、路線に乗っている児童は有料というわけにはいかないため、すべて無料と考えている。

今配布した資料は、上が巡回バスの経路、下が路線バスの経路なので参考とされたい。なお、ある程度話し合いが進んだら、実際にバスを走らせ、皆さんと一緒に本当に可能かどうか検証したいと考えている。

【委員長】 スクールバスの利用者は基本的には無料ということだが、バスの購入などには経費が掛かるが、運行に係る総経費については、どう考えているのか。

【事務局】 経費については、この委員会で考える必要は無い。学校の維持費1校分でバスの運行が可能である。経費に関しては心配されず、子どもたちにとって、何が一番安全で効率が良いか等を考えてほしい。

【委員】 帰りなど迎えに行かなければならなくなった時が心配である。学年によって帰る時間が異なるがどうするのか。

【事務局】 下校については、各時間帯に分けて運行するという事で対応したいと考えている。

【委員長】 学校長の責任で下校の時間を決めたり、帰りのバスの時間を決めたら良いと思うが、具体的な時期が来るので、その時に決めたら良いと思う。

【委員】 バスの時間が決まっているということは、その時間まで学校で待たせてもらえるのか。

【委員長】 学校の行事やクラブ活動等の場合に児童をどうやって帰すかということについて、応用動作が出てくると思う。

【事務局】 スクールバスでしたら、バスに合わせて学校が動くのでは無く、学校で時間を決め、それに合わせてバスを運行するということになる。また対外試合や校外学習などでは、バスを自由に活用できるというメリットもある。

【委員】 路線バスの児童はどうなるか。路線バスだと、時間が決まっているため、時間が合わないことがあると思う。

【事務局】 業者と交渉することとなる。

【委員】 その日その日で変えるのか。部活や行事で突然変更が必要になったときはどうするのか。路線バスの時間を



変えることは難しいと思う。

【事務局】 路線の場合は、次のバスまで待たせるしかない考える。

【委員】 そうなると、路線バスの案はかなり厳しい。。時間が決まっているため、変更できない。また、次の便が1時間後になるのか、次があるかどうか問題になる。バスを降りてから歩くことを考えると、1時間遅れると、真っ暗になってしまうこともあると思う。

【委員長】 その問題は今もある。これに関しては、学校運営の中で具体的に考えなければならぬと思う。

【委員】 現状で坂本などはどうしているか。

【委員】 長南小の帰りの路線バスは、1ヶ月の行事予定をあらかじめ業者に渡している。朝は、一般の乗車も有り無理だが、帰りに関しては臨時バスに近い形で運行してもらっている。

【委員】 一般の方も利用するため、路線を使う形は難しいということになる。

【委員長】 これに関しては、交渉次第になると思う。経費が掛かれば税金で臨時バスを運行することができる。今も長南小では、大きな行事等で臨時バスを運行してもらっている。交渉次第で可能だと思う。また、空いていれば、町バスの利用も可能だと考えられる。通常の経路が決まらないことには、年に数回の臨時の運行について話しても仕方がないので、早めに経路を決めたいと思う。

【委員】 スクールバスの停車位置は増やすことができるのか。西地区の山内・市野々方面は山間部のため、安全・安心を考え2、3人ごとの乗降は可能か。

【事務局】 停車位置に関しては可能である。開校年度の児童で試算しているため、固定ということではなく、児童が入れ変われば変えるような形が良いと考える。

【委員】 巡回バスの経路は変えることができるのか。

【委員長】 巡回バスは別の委員会があるので、そこでの話し合いになると思う。



【委員】 今の時点では、路線バスと同じという考えで良いのか。

【委員】 保育所バスが走っていると思うが、そのルートや時間は把握しているか。

【事務局】 人数が多いので試案したものは、もっと大型で通行可能なルートである。

【委 員】 保育所のルートは参考にはできないということか。

【事務局】 スクールバスについては、児童の待機場所があり、親の送迎にもある程度対応できる場所を考えている。

【委員長】 事務局の考えは、ある程度人が集まり、送り迎えも可能な場所で、もう一つはある程度自宅から歩かせようという考えがあると思う。そういったことを含め意見を聞きたい。

【委 員】 実際に走ってみてからでないといけないところが多いと思う。

【事務局】 こまめに停めて児童を乗車させれば時間がかかる。スクールバスを使っている学校の課題として体力テストの低下が上げられている。ある学校では、学校についてからランドセルを背負ったまま、グラウンドを歩かせている。

保護者に提案すると、自分の家の近くに集合場所を置きたいという意見が出てくると思う。そのため、きちんとした意図を示す必要がある。

【委 員】 それぞれの意見をすべて聞いていると、やっぱり一番いいところは自分の家に近いところになってしまうと思う。そのためにもしっかりした基準を示す必要がある。

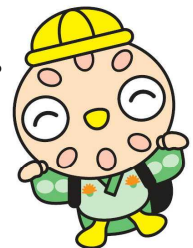
ただ、ここまで細かく区切るのではなく、今の小学校に集めるということではだめなのか。

【事務局】 ○町では閉校した学校を起点として運行している。ただその学校まで40分もかかり、その後バスで移動ということもあり、スクールバスは運行しているが、ほとんど親が送ってきているという実態もある。このことも考慮し考えていただきたい。

【委 員】 バス通学しなければならないのか。自転車通学などはどうか。

【事務局】 小学生の自転車通学はどうかと思う。

【委 員】 いつ頃までに決めれば良いか。



【事務局】 開校1年前までに作成したいと考える。それを住民説明し、そこで拳がってきた意見で修正し、29年4月に運行をスタートしたい。

【委員長】 事務局の方から、他に何かあるか。

【事務局】 3月は卒業式などで忙しい。委員会は1月、2月の2回を予定したい。閉会後に地区ごとで集まって意見交換をお願いしたい。

※以後、各地区に別れて話し合い。